

高速鉄道部会交渉（5月23日）・高速分科会交渉（6月18日）

西神・山手線のワンマン運転化や駅務遠隔化の導入の提案に対し当局に申し入れ



発行元
神戸交通労働組合
〒653-0004
神戸市長田区四番町 2-1-2
神戸交通労働組合会館
TEL 078-575-6712
FAX 078-575-3848
編集発行人
佐藤 秀樹
毎月 15 日発行
定価 1 部 10 円
組合員の購読料は組合費に含む



西神・山手線のワンマン運転化や駅務遠隔化の導入をめぐり、5月23日に行われた第1回高速鉄道部会交渉、6月18日の高速分科会交渉と相次いで交通当局と交渉を行い、現場の実態と課題を踏まえた議論が交わされました。安全確保や人員配置、高齢運転士の勤務継続、駅務時間の見直しなど、多岐にわたるテーマで組合は改善を求め、当局は制度設計の方向性を示しました。現場の声をいかに制度に反映させるかが、今後の焦点となります。

高速鉄道部会交渉

（5月23日）

行いました。

高速鉄道部会交渉は、当局から繁田高速鉄道部長ら4名、組合から平尾高速鉄道部長ら4名が出席し、高速鉄道部門における経営改善策について、西神・山手線のワンマン運転化と駅務遠隔化システムの導入を主な議題として、高速鉄道部会交渉および分科会交渉を

当局からは、2026年1月からの西神・山手線ワンマン運転化と、2028年度を目途とした駅務遠隔化システムを全駅で導入するとの提案を受けました。ワンマン運転化に伴い、運転士の習熟訓練、乗務付帯時分・仕業の見直し、車掌の駅掌への転任などが計画されています。また、西神・山手線の委託駅の直営化や勤務時間

の見直しも提案されました。駅務遠隔化システムの導入については、駅業務の抜本的な見直しや勤務体制・勤務時間の見直し、海岸線委託駅の直営化などが含まれています。

組合からは、ワンマン化後の安全管理体制や遠隔システム導入後の緊急時対応について質しました。また、時差仮眠の導入、提案された21時間勤務シフトにおける60歳以上の職員の健康管理、乗務員の視力検査の実施漏れとその再発防止策などについても質問や懸念を示しました。さらに、カスタマーハラスメント対策として、各部署や全駅に録音機能付き電話を導入してほしいとの要望を行いました。

高速分科会交渉

（6月18日）

高速分科会交渉は、当局から繁田高速鉄道部部长（地下鉄運輸サービス担当）ら4名、組合から平尾高速鉄道部長ら3名が出席

し、ワンマン運転化や駅務遠隔化に伴う具体的な変更点について協議が進められました。

組合から、一定年齢以上の運転士が継続して運転業務に従事できる可能性について質問したところ、当局は「60歳以上の運転士は駅業務に就いていただくことを想定している」と回答しました。また、駅務遠隔化時の21時間拘束勤務案について、多くの人員が必要になるのではないかと組合の質問に対し、当局は日勤勤務を組み込むことと駅務遠隔化を組み合わせることで、職員数減少の難局を乗り切るための提案だと説明しました。

今後の交渉は、高速運輸部門は高速運輸分科会で整理後、支部交渉へ、技術部門は支部交渉で詳細を話し合うことが確認されました。さらに、交渉終了後の意見交換会では、今後数年間の運輸事務職員や運転士の採用計画についても言及がありました。

【議事録等の資料については、別紙参照】

都市交評2025年度第3回鉄軌道部会

公共交通の持続可能な運営に向けた課題で議論を交わす

2025年7月31日から8月1日にかけて、仙台市で「都市公共交通評議会 2025年度第3回鉄軌道部会」が開催され、公共交通の持続可能な運営に向けた様々な課題について議論が交わされました。部会には松岡部会長（名古屋）をはじめ、全国から多数の出席者が参加し、2025年度の政府予算要求や将来的な人員不足への対応策、安全運行確保に向けた取り組みなどが話し合われました。

会議では、2026年度第1次 運賃制度の導入も要望されました。政府予算要求の内容が協議され、国土交通大臣宛ての要請書が示されました。

要請書では、依然として厳しい経営状況が続く公共交通事業者への新たな支援策の拡充が強く求められています。また、人件費・燃料費の高騰や人員確保のための職員の処遇改善を踏まえた、柔軟な

対応策として、各組織が採用試験の見直しに着手していることが報告されました。札幌市交通労働組合は、電子申請やSNS広告に加え、年齢要件の拡大とSPI3の導入により、受験者数の減少に歯止めがなかったと報告しています。横浜交通労働組合は、募集時期を9月頃に変更することで、他社への応募者流出を防ぐことを提案しました。京都交通労働組合も今年度の採用試験からSPI方式を導入する予定です。

乗務員の安全確保に関わる「睡眠時無呼吸症候群（SAS）」対策も主要な議題となりました。各組織で検査体制は異なるものの、

3年に1度のスクリーニング検査を基本としています。札幌市では、SASと認定された場合、年1回以上の通院が確認できれば乗務可能です。簡易検査・確定検査費用は当局負担ですが、治療費は自己負担となります。一方、横浜交通労働組合では、C PAP治療の使用率が70%未満の場合、2日連続で乗務停止となる厳しい基準を設けています。精密検査費は最高2万円まで補助されますが、治療費は自己負担です。

運輸現場の研修については、自然災害の頻発を受けて水害を想定した訓練が強化されており、札幌市交通労働組合は地下鉄走行路面が水没した場合の「列車の緊急移動場所」マニュアルを作成し、夜間営業外に実務訓練も行っています。また、カスタマーハラスメント対策として、京都交通労働組合は新たに作成した「対応の手引き」とVTRを用いた研修を年4回実施する予定です。

会議初日には、仙台市交通局の富沢車両基地と市電保存館が視察され、参加者は現場の状況を直接確認しました。また、福岡県での鉄道現場視察（北九州モノレール、JR貨物福岡貨物ターミナル）についても報告がありました。

【読者投稿 h i r o さん】

皆さんは幽霊を信じますか？

今石屋川営業所では、にわかに心霊ブームが巻き起こっています。

事の始まりは異動してきたM氏。M氏は特に霊感が強いらしく……

ある日、所属長に「ここはお祓いなどしないのですか？ 2階の廊下が特にひどく、歩くだけで胸を締め付けられ息切れするのです」と。

所属長は宿直勤務である係員に異例の聞き取りを始めます。

「何か心霊現象を感じたことはありますか？」

すると、出てくる出てくる。

「深夜に誰もいないはずの会議室のドアがボタンボタンと開いたり閉まったりを繰り返す」

「就寝中、クーラーの電源を切られた」

「就寝時に手元で消したはずの室内灯が、起床時には壁の電源ごとOFFにされていた」

などなど。

現在石屋川営業所では、お祓いの盛り塩を各所に設けております。

近頃暑い日が続いていますが、背筋が凍るような体験をしに、石屋川営業所へいらしてみませんか？



仙台市交通局市電保存館を見学